



札幌丘珠空港から脱炭素推進「HAC eco AIRPORT」をはじめます

北海道エアシステム(HAC)は、道民の翼として北海道の美しい自然を守るため、空港施設と車両からのCO2排出量削減などの効率的な設備導入を行い、北海道をはじめとする周辺自治体とともに、空港の脱炭素化推進のための課題解決を進めています。HACは、CO2排出量が少なく、自然にやさしいエコなターボプロップ機の運航と併せて、空港の脱炭素化を推進するプロジェクトを「HAC eco AIRPORT」とし、空港での先進的な事業にも積極的に取り組んでまいります。

このたび、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向けて、リチウムイオンバッテリー式の電動牽引車(トヨタL&F社製)「EVトーイングトラクター」ならびに電源装置「eGPU(*1)」(ITW社製;多摩川エアロシステムズ株式会社輸入)を3月6日(水)より、北海道の空港で初めて札幌丘珠空港に導入します。

(*1)GPUとは、地上動力装置(Ground Power Unit)の略で、駐機中の航空機へ電気や冷暖房の確保のための電力供給装置。



“eco PROP” がデザインされたATR42-600型機(4号機)と

電動牽引車(トヨタL&F社製)「EVトーイングトラクター」並びに電源装置「eGPU」

【電動牽引車「EVトーイングトラクター」導入】

札幌丘珠空港では、格納庫と駐機場間の航空機の移動をトーイングトラクターと呼ばれる牽引車を使用しています。これまではディーゼルエンジン式のトーイングトラクターを使用していましたが、EVトーイングトラクターの導入により、低騒音化やCO2排出量の削減効果が期待されます。



EVトーイングトラクターのルーフは北海道の冬を想定した仕様となっている



【電源装置「eGPU」導入】

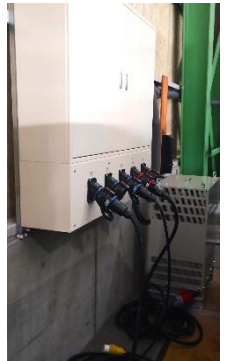
駐機中の航空機への電力供給と空調は、ディーゼルエンジン式の電源車両「GPU」を使用して行われており、排気ガスおよびCO2が発生しています。新たにバッテリー式の「eGPU」を導入することで、低騒音化やCO2排出量の削減、省エネ化を実現することが可能になりました。



ディーゼルエンジン式電源車両 (GPU)



バッテリー式の「eGPU」



充電ポート



約90%削減

eGPUの導入により、既存のディーゼルエンジン式と比較して、年間CO2総排出量の約90%削減効果が期待されています。今後は、奥尻・利尻空港にも順次展開し、離島の環境保全にも努めてまいります。

【出発前の航空機エンジン始動の運用変更】

従来は、お客さまの搭乗開始のタイミング(出発予定時刻の15分前)にてGPUによる電源供給を止め、右エンジンのプロペラを停止させたままIDLEで始動(「Hotel Mode」という)することで電気と空調を確保していましたが、4月1日(月)より、出発前の航空機のエンジン始動開始時期を出発間際まで遅らせる運用を導入します。これにより、地上停留中の航空機からのCO2排出をさらに抑制することができ、1便あたりのCO2排出量を約70%削減する効果が期待されます。

HACは、これらの取り組みを通じて、北海道の自然環境保護に貢献しながら、持続可能な空港運営を実現することを目指しています。今後もさらなる事業の推進や技術革新に取り組んでまいります。

以上



HACでは、札幌市内にありコンパクトで使いやすい札幌丘珠空港を地域と地域を結ぶ拠点として、より多くのお客さまにご利用頂けるよう、近くて手軽なご出張・ご旅行をサポートする「札幌ダイレクト」の取り組みを展開しています。札幌都心部への地下鉄を使ったアクセスも良くなった札幌丘珠空港を利用した空の旅をお楽しみください。



【「eco PROP」 ATR42-600型機】

ATR機はそのサイズ感や徹底した軽量化により、100席以下のジェット機の約半分程度の燃料消費量で目的地に到着することができます。北海道の自然環境に優しいエコな航空機です。2023年10月に就航した4号機(JA14HC)は、その機体に「eco PROP」がデザインされています。